

## 特別史跡名古屋城跡バリアフリー検討会議

日時：平成30年4月24日（火）10:30～12:00

場所：名古屋市役所本庁舎正庁

### 会 議 次 第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事  
特別史跡名古屋城跡のバリアフリーについて
- 4 閉会

# 特別史跡名古屋城跡バリアフリー検討会議開催要綱

## (名称)

第1条 本会議は、特別史跡名古屋城跡バリアフリー検討会議(以下「会議」という。)と称する。

## (目的)

第2条 会議は、次に掲げる事項について専門的見地から意見を聴取することを目的として開催する。

- (1) 特別史跡名古屋城跡全体のバリアフリーに関すること。
- (2) その他必要と認めること。

## (構成)

第3条 会議は、学識経験者のうち、市長が指名する者により構成する。

- 2 市長は専門的事項の検討のため、前項の構成員以外の学識経験者等に検討事項を明示したうえで、出席を求めることができる。

## (座長)

第4条 会議の座長および副座長は、それぞれ構成員の互選により決定する。

## (会議)

第5条 会議は、市長がこれを召集する。

- 2 会議は原則として公開する。ただし、座長が必要と認めるときは、非公開とすることができる。

## (現場視察)

第6条 市長は、会議の事項について、現場視察を開催することができる。

## (謝金)

第7条 第3条及び第6条により会議等に出席した者は、会議等への出席1回につき12,600円の謝金を支給することができる。

## (事務)

第8条 会議の事務は、観光文化交流局名古屋城総合事務所が処理する。

## (その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、名古屋城総合事務所長が定める。

## 附 則

この要綱は、平成30年4月10日から施行する。

特別史跡名古屋城跡バリアフリー検討会議

【構成員】

**建築・地盤工学関係学識者**

(敬称略)

氏名	専門分野	所属等	出欠
小野 徹郎	建築構造学	名古屋工業大学名誉教授	出席
片岡 靖夫	建築構造学	中部大学名誉教授	出席
川地 正数	建築生産	川地建築設計室主宰	出席
小浜 芳朗	建築構造学	名古屋市立大学名誉教授	欠席
小松 義典	環境工学	名古屋工業大学大学院准教授	出席
西形 達明	地盤工学	関西大学名誉教授	出席
堀越 哲美	環境工学	愛知産業大学学長	出席

**建築史関係学識者**

(敬称略)

氏名	専門分野	所属等	出欠
野々垣 篤	建築歴史、意匠	愛知工業大学准教授	欠席
麓 和善	建築史、文化財保存修理	名古屋工業大学大学院教授	欠席
三浦 正幸	日本建築史,文化財学	広島大学名誉教授	出席

**福祉関係学識者**

(敬称略)

氏名	専門分野	所属等	出欠
磯部 友彦	交通計画、福祉のまちづくり	中部大学教授	出席
高橋 儀平	福祉のまちづくり	東洋大学教授	出席
渡辺 崇史	福祉工学	日本福祉大学教授	出席

**工学関係学識者**

(敬称略)

氏名	専門分野	所属等	出欠
佐野 明人	機械工学	名古屋工業大学大学院教授	出席
中嶋 秀朗	システム工学	和歌山大学教授	欠席
山田 陽滋	機械安全、ロボティクス	名古屋大学大学院教授	出席

【オブザーバー】

(敬称略)

氏名	所属等	出欠
斎藤 縣三	特定非営利活動法人わっぱの会理事長	出席
近藤 佑次	愛知県重度障害者の生活をよくする会会員	出席

# 特別史跡名古屋城跡のバリアフリーについて

名古屋城天守は、昭和20年に空襲によって焼失しましたが、市民の機運の高まりにより、昭和34年に鉄骨鉄筋コンクリート造によって、外観は焼失前の姿に、内部は博物館として現在の姿に再建されました。

しかし、現天守閣は耐震診断の結果、耐震性能が著しく低いことなどから、現在の天守閣を解体し木造により復元する名古屋城天守閣整備事業を進めています。

この事業は、史実に忠実な復元を主な設計条件とした技術提案・交渉方式(設計交渉・施工タイプ)によるプロポーザルを実施し、民間事業者からの技術提案を受け設計を進めているところです。

特別史跡名古屋城跡の保存と活用の基本的な方針を定めた、「特別史跡名古屋城跡保存活用計画(案)」では、年齢や障害の有無、言語の違いなどに関わらず、多くの方が楽しめる観覧環境を整えるため、来場者の円滑な観覧を促すような対策を実施し、VR等の活用も検討することとしています。

今年度は、名古屋城全体のアクセスに関するバリアフリーについても検討を進めるため、現状把握のための調査を進めていくことを予定しています。

## I. 保存活用計画(案)に基づく天守木造復元の方針

### <整備方針>

- 木造復元は、特別史跡内の建造物として本質的価値の理解を促進するという点において優位性が高く、また、現天守閣が有する価値の保存、継承といった木造復元における様々な課題も、それぞれの方策によって克服することが可能であると考えられるため、今後、現天守閣の価値を超える木造復元の意義を丁寧に説明することを前提として、整備方針は木造復元とし、検討を進める。
- 真実性の高い復元とバリアフリーという課題に関しては、昇降等、移動の困難な方へ対応をいかに行うか検討し、ハード・ソフトの両面からの対応を行うことにより、課題を乗り越えることは可能と考える。

## II. 天守閣木造復元の前条件

- 名古屋城天守閣木造復元については、文化財保護法による「復元」とし、**建築基準法第3条第1項4号の適用により建築基準法の適用を除外**することで、木造による復元が可能となるが、構造や防火・避難に関する性能について現代建築物と同等の安全性を確保することが前条件となる。
- バリアフリー法については、建築基準法第3条の適用を受けることで、特別特定建築物に該当せず、**建築物移動円滑化基準への適合義務に関する規定は適用されない**。しかし、地方公共団体及び施設管理者の責務である**移動円滑化を促進するために必要な措置を講じる努力義務については適用される**。

## III. 現在の天守閣に関するバリアフリーの状況

- 本丸エリアから大天守5階までは、エレベーターを利用して昇降することが可能となっており、バリアフリーへの対応はできているが、1階から5階が展示室となっているため展望はできない。天守最上階(7階)の展望室への昇降は階段のみしかないため、バリアフリーへの対応ができていない。

## IV. エレベーター設置の可否に対する市民意見

次の趣旨の意見が多数寄せられている。

- 戦災で失った天守を復元する事業であり、元々の天守になかったエレベーターを設置するべきではない。
- 復元とはいっても、これから建設する建物なのでバリアフリーは当然である。したがってエレベーターは必須である。

## V. これまでのバリアフリーの検討

目的	内容	具体例
名古屋城全体のアクセスについて、城内の移動円滑化を進め、安全で快適な観覧環境を整備する。	城内の観覧ルート及び観覧施設や便益施設へのアクセス性を改善し移動円滑化にむけた施設整備を進める。	平成30年度に、城内のアクセシビリティについて、現状把握をするための調査を実施し、その結果を踏まえ適切に改善を進めていく。
急な階段の昇降が不便な方に木造天守を体感していただく。	木造復元天守内から見た内部空間や景観が体感できる施設(VR等)を設置する。	分身ロボットを活用する。天守内を見学するロボットが感じるものをシアターで体感する。ロボットと同行する人との会話も可能。
急な階段の昇降が不便な方に、サポートにより天守内のエレベーターでいけない場所を見学していただく。	予め日時を設定(ハートフル・デイ)し、機械や人的なサポートを行う。	歩行アシスト器具を本人、或はアシストするボランティア等が装着し、階段を昇降して見学する。
急な階段の昇降が不便な方に、新たな昇降技術により天守内のエレベーターでいけない場所を見学していただく。	階段を昇降する車いす型のロボットやドローンの改良などの新技術により対応する。はしご車や高所作業車などの既存技術を活用した、新たな昇降設備により対応する。	ロボット技術等により障害物を乗り越えることができる車いすにより、なだらかな階段を3段昇降することが可能。また、ドローンやはしご車などは、人を乗せ昇降できるかどうか課題。天守の昇降のためには、安全性を含めさらに技術開発が必要。

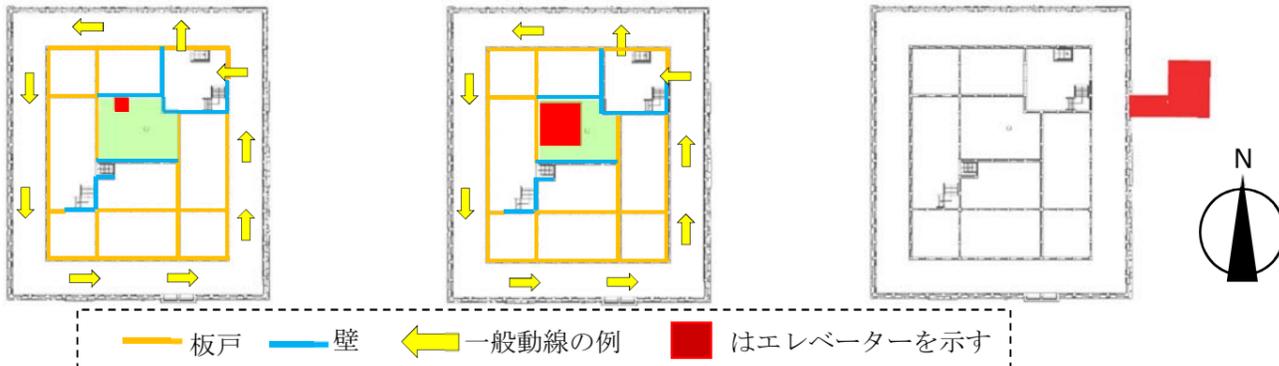
<エレベーター設置について複数案の検討と課題の整理>

○検討した複数案

- (1) 技術提案に基づく内部エレベーター(4人乗り) 到達階3階、4階
- (2) 内部エレベーター(11人乗り) 到達階4階(最高)
- (3) 外部エレベーター(11人乗り) 到達階1階

○想定されるエレベーターの設置位置(大天守1階の平面図)

内部エレベーター(4人乗り) 内部エレベーター(11人乗り) 外部エレベーター(11人乗り)



※内部EVを設置した場合、を板戸及び壁によって区画することにより、観覧範囲から除外することも可能。

○史実との乖離

内部(4人乗り)		内部(11人乗り)	外部(11人乗り)
到達階3階	到達階4階	到達階4階(最高)	到達階1階
大梁を一部切欠く程度であるが、一部「史実」との乖離が生じるものと考えられる。	大梁を1か所切断する上、避難階段の設置が必要となった場合には、大梁を更に1か所切断する必要がある「史実」との乖離が比較的大きくなるものと考えられる。	柱や大梁を大幅に切断し、鉄骨などにより建物を補強する必要があるため、「史実」と大幅に乖離するものと考えられる。  到達階を4階とするエレベーターを設置し、4階から避難階段の設置が必要となった場合には、大梁を1か所切断する必要がある「史実」との乖離が更に大きくなる。	外壁に史実にはない開口部を新規に設置する必要があることや、特別史跡の景観上好ましくない影響を与えることなどが考えられ、木造天守への影響範囲は小さいが、「史実」との乖離が生じるものと考えられる。

○バリアフリーに関する課題

内部エレベーター(4人乗り)の場合	・エレベーターが狭いため、一般的な車いすや電動車いすなどへの対応ができない。(かご寸法 奥行100cm×間口80cm) ・最上階への登城は困難。
内部エレベーター(11人乗り)の場合	・電動車いすへの対応も可能であるが、最上階への登城は困難。
外部エレベーター(11人乗り)の場合	・電動車いすへの対応も可能であるが、遺構を毀損しない基礎構造とする必要があるため、到達階が1階に限定される。

○緊急時・災害発生時の避難に関する課題

内部エレベーターの場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害等発生時の対応のため、天守内部に避難階段や避難器具等の設置が必要となる可能性がある。</li> <li>・避難階段による避難をする場合であっても、人的サポートによる避難などが必要である。</li> <li>・屋内に避難階段を設置する場合には、防火区画等を検討する必要がある。</li> <li>・内部に設置する避難器具については、木造天守にあわせ更なる開発が必要である。</li> <li>・電動車いす使用者の避難については多数のサポートが必要。</li> </ul>
外部エレベーターの場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害等発生時の対応のため、外部エレベーターに避難階段や避難器具等を併設するとともに、人的サポートによる避難などが必要である。</li> <li>・電動車いす使用者の避難については多数のサポートが必要。</li> </ul>

特別史跡名古屋城跡のバリアフリーに関する方針(案)

- 名古屋城全体において、バリアフリーの推進は大変重要なことであるため、様々な方策の検討を継続的に行うことにより、より多くの人に、木造天守を見学・体感してもらえるように努める。

<今後、対応を行っていく事項>

- ・名古屋城全体のアクセスに関する移動円滑化
- ・VR技術を活用した体感施設の設置
- ・階段を始めとする場内の段差を昇降するための新技術の技術開発状況調査
- ・天守閣の昇降に関する付加設備の検討

◆昇降に関する付加設備として木造天守のエレベーター設置に関する検討

<基本的な考え方>

市民の精神的支柱であり、誇りであった名古屋城の天守を、残された豊富な資料に基づき、戦災で焼失する前の姿にするため、史実に忠実な復元を確保した上で、観覧環境を整備するための付加設備とする。

<検討案>

A案：史実に忠実に復元するためエレベーターを設置せず、新技術の開発などバリアフリーに最善の努力をする。

B案：一部に史実との乖離が生じるが、天守内部に到達階を3階とする4人乗り小型エレベーターを設置する。

C案：史実との乖離が生じるが、天守外部に到達階を1階とする11人乗りバリアフリー対応のエレベーターを設置する。

※なお、新技術の開発などについては、B案、C案についても同様。

障害者団体からのバリアフリーに関する要望・意見

団体名	要望・意見
愛知障害フォーラム (ADF)	<p><u>公開質問状受理、回答書提出</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・腹筋等が弱い重度の障害者は、チェアリフトに座ることができない。</li> <li>・障害者団体等の意見を聞かずにエレベーターを設置しないという方針を出したのはどうしてか。</li> <li>・特別支援学校等の団体が来城した場合、どのように対応するのか。</li> </ul>
愛知障害者(児)の生活と権利を守る連絡協議会	<p><u>要望書受理</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「史実に忠実な復元」のためエレベーターを設置せず、チェアリフトを設けることは、障害者らの訪問を妨げる事にしかならない。</li> <li>・今回の判断は、障害者差別解消法第三条及び第五条に加え、障害者権利条約第九条やバリアフリー法に反した判断と言える。</li> <li>・障害者、高齢者を排除しない上で「史実に忠実な復元」を。</li> <li>・少なくともエレベーターを設置しバリアフリーとし、誰もが訪れることのできる「誇り」ある名古屋城とするよう現方針の撤回を求める。</li> </ul>
名古屋市身体障害者福祉連合会	<p><u>要望事項</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木造で復元するにあたって、車いす利用者も天守閣まで見学できるような配慮をしてほしい。</li> <li>・天守閣まで車椅子が乗れるエレベーターを設置してほしい。高齢者が増加し、皆さんが楽しめるものにしてほしい。</li> <li>・駐車場を城内に、特にエレベーター付近に障害者専用駐車場を5台から10台造ってほしい。</li> </ul>
名古屋市障害者団体連絡会	<p><u>ヒアリング</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代は、エレベーターを設置するのは当たり前であり、復元であっても、現代の技術を取り入れた、新しい名古屋城にしてほしい。</li> <li>・名古屋城の復元は、障害者や高齢者等の意見も聴いて、誰もが見学できる観光施設として、多様性を認め合うシンボルとしてほしい。</li> <li>・障害者や高齢者、子どもも安全に昇降できるようにしてほしい。</li> <li>・多数の来場者が、一度に安全に昇降できるようにするためには、エレベーターの設置が一番よい。</li> <li>・自分の車椅子からの移乗が困難な重度の障害者が、どうやって名古屋城を昇り降りするのか考えてほしい。</li> <li>・障害者権利条約や障害者差別解消法があるなかで、対応できていないのは国際的にも、批判を受けるのではないか。</li> </ul>

## 高齢者団体等からのバリアフリーに関する要望・意見

団体名	要望・意見
名古屋市高年 大学鯨城会	<p data-bbox="411 495 576 533">ヒアリング</p> <ul data-bbox="421 562 1230 600" style="list-style-type: none"><li>・会の総意として、エレベーターは設置しない方が良い。</li></ul>
名古屋市老人 クラブ連合会	<p data-bbox="411 763 576 801">ヒアリング</p> <ul data-bbox="421 831 1433 904" style="list-style-type: none"><li>・個人の意見として、色んな方々に天守閣を見てもらいたいのであれば、エレベーターを設置してほしいという意見があった。</li></ul>

技術開発関係者からのバリアフリーに関するコメント

団体名	要望・意見
<p>トヨタ車体株式会社</p>	<p>ヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トヨタ車体(株)のからくり技術は、作業をより安全に、容易に物を運ぶ技術の開発であり、人が乗ることを想定した技術の知見はない。</li> <li>動力を小さめにし、極力常時設備ではない人を安全に昇降させるスペックが必要である。</li> <li>別企業にからくり技術を見ていただき、共同開発は難しくても、技術提案することは可能かと考えられる。</li> </ul>
<p>日進医療器株式会社</p>	<p>ヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>車いすは、地下街から避難するときに、階段を上れないことが大きな課題である。</li> <li>車いすは、段差に対して乗り越えることが大命題であるが、技術開発は簡単なことではなく、まだ全てが解決していない。</li> <li>当社は、手動車いす等の設計開発・製造を行っているが、協力可能なことは、急勾配の階段を移動できる車いすの開発ではなく、現在の車いすで、どのような対応が可能かどうかのアイデアや、車いすの設計に関する情報提供の協力はできる。</li> </ul>
<p>株式会社 豊田自動織機</p>	<p>ヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>屋内利用可能な電動式の、人が乗って昇降できるタイプのフォークリフト/高所作業車はあるが、用途外の利用は法律で制限されている。</li> <li>重量は2 tあり、床の補強、法定年次点検整備のための搬入口、充電設備、消火設備が必要</li> <li>非日常的に利用されるのであれば、人力によるかご運搬が乗る方の安全・安心が確保でき、さらにはガイドなどのコミュニケーションもとれ、木造復元の趣旨に合致するのではないか。</li> <li>弊社の開発製品の中にはないが、アイデアとしては支柱を2本出し、担架のように前後2名ずつで担ぎ、かつ、かごの部分の水平を維持するような機構を備えたものなどが考えられる。機構学に長けたところであれば対応できると思われるので、そういった方にもご相談されてはどうか。</li> </ul>

団体名	要望・意見
<p>和歌山大学 中嶋秀朗教授</p>	<p>ヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在開発している「車いす型ロボット」を、導入可能な技術として開発するためには、現時点の技術では限界があるが、開発するとなれば「チャレンジ」となる。</li> <li>・開発するためには、熱い思いをもった人や企業が集まらないと作ることにはできず、安全性や品質の問題をクリアにするために、設計開発や制御部分の開発、ソフトウェアの開発や自社開発できるメーカーを集めて行うことが必要である。</li> </ul>
<p>名古屋工業大学 佐野明人教授</p>	<p>ヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・装着型の移動支援機器、分身ロボット・アバターなどの開発が進んでいる。</li> <li>・通信規格が4Gから5GになるとVRの技術は大きく進歩する。</li> <li>・VR技術の一つとして、五感で感じる分身ロボット・アバターで最上階へ行くという選択肢も考えられる。</li> </ul>
<p>株式会社 モリタ</p>	<p>ヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすに乗ったまま乗降できるはしご車については、今後対応することができる可能性はある。</li> <li>・はしごの先端が屈折するものもあり、複雑な形状の建築物にも対応することができる可能性はある。</li> <li>・消防車は救助するためのものであり、他の用途に転用することは想定されていないが、使用条件に合わせた仕様を検討する必要がある。</li> </ul>
<p>株式会社 メイキコウ</p>	<p>ヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品化している車いす用段差解消機は、高さは2.5mまでである。</li> <li>・段差解消機としては法的に高さ4mまで対応できるが、重さが2トンくらいあり、また折り畳んだ状態で60cm程度の高さがあるため、床に埋め込むことや別の段差解消機を設けるなどの対策が必要である。</li> <li>・固定式、移動式の何れにしても各種法規制の確認が必要である。</li> </ul>
<p>株式会社 プロドローン</p>	<p>ヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドローンは現在、法的にも技術的にも人を乗せるレベルには至っていない。近い将来その実験が開始され、可能になる時が来ると思われる。</li> <li>・天守閣の外壁に離発着エリアを設ける必要がある。</li> </ul>

市民等からのバリアフリー（E V設置の可否）に関するコメント

種別	E V設置可否	主なコメント
市民の 声	エレベーター 設置 賛成：6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全を考えるのであればエレベーターではないでしょうか。</li> <li>・木造化は観光客を増やすためであるはず、だったらどうしてエレベーターをつけないのか。</li> <li>・名古屋城木造復元で登れなくなってしまう。もっと福祉のことを理解してほしい。</li> </ul>
	エレベーター 設置 反対：33	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エレベーターを設置したら木造復元の意味がない。</li> <li>・資料が多く忠実に再現できる数少ない貴重な城であることを忘れてはなりません。</li> <li>・名古屋城にエレベーターは不要です。設置するくらいなら木造化に反対します。</li> </ul>
電話	エレベーター 設置 賛成：9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エレベーターを設置しないことは、すべての障害者を排除することとなる。</li> <li>・エレベーターは高齢者等が対象となっているが、一般の人でも上がるのは大変なので付けてほしい。</li> <li>・犬山城のような急な階段では高齢者にも厳しいので、エレベーターは付けるべき。</li> </ul>
	エレベーター 設置 反対：11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸時代の天守は防御施設であり、バリアがあるのは当然のこと。エレベーターはなくて当たり前。</li> <li>・障害2級で車椅子が無いと生活できないが、昔のままの復元が出来るなんてまたとない機会。そのままやってほしい。</li> <li>・「史実に忠実に復元する」という市の方針とは相反する設備を付加することに反対。</li> </ul>
メール	エレベーター 設置 賛成：6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の城には無い多様性に配慮した素晴らしい城を造ってもらいたい。</li> <li>・障害者も高齢者の方も、ベビーカーを押すお母さんも、同じ城が見たい時に見れることは当たり前だと思う。</li> </ul>
	エレベーター 設置 反対：19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当時のままという方針、堅持して頂くことに1票。</li> <li>・名古屋城はバリアフリー施設ではありません。</li> <li>・木造では耐震的にエレベーターの設置は難しいと思います。</li> </ul>
はがき 手紙	エレベーター 設置 賛成：2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エレベーターなしは断固反対。お体が不調の方、乳幼児連れ、そして筋力が低下する高齢者にとって、階段の上下は困難。</li> <li>・将来の若い世代に、「身体障害者用のエレベーターも作っておいたよ。」と自慢できます。</li> </ul>
	エレベーター 設置 反対：12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エレベーター設置など絶対あってはならない事で忠実な再現には仕方のない事です。</li> <li>・エレベーター等付ければ歴史的価値はゼロに近くなる。</li> <li>・文化財にキズをつけたり破損させ、歴史的価値をなくすことは絶対にやめてほしい。</li> </ul>

(平成30年4月16日時点)

市民等からのバリアフリー（EV設置の可否）に関するコメント

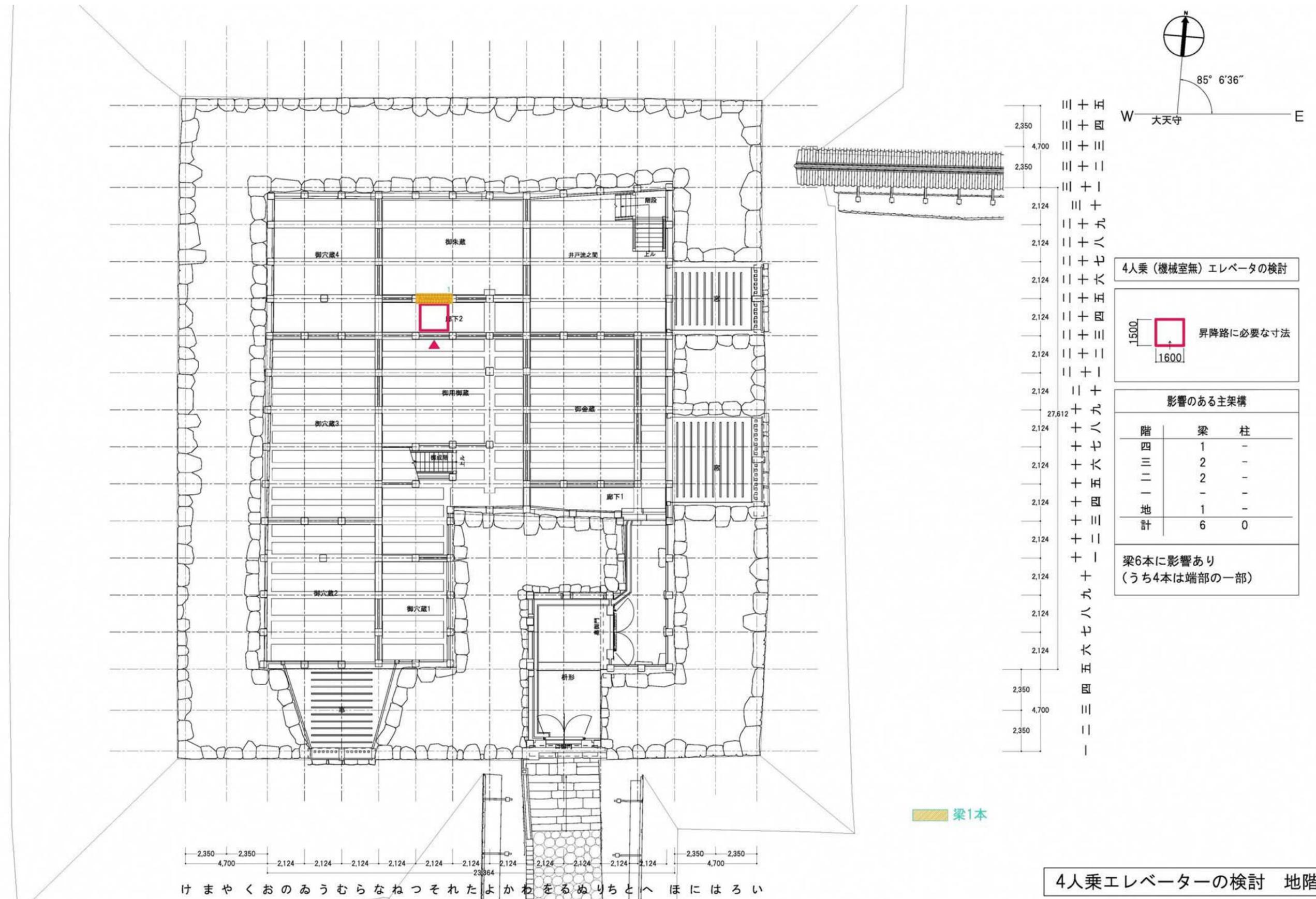
種別	EV設置可否	主なコメント
名古屋 城HP	エレベーター 設置 賛成：1	<ul style="list-style-type: none"> <li>EVは身障者、老人、若くても足等をけがしている人に是非必要。再建を行うのであれば、忠実に復元を目指すだけでなく、新たな役割の付加は当然のことである。</li> </ul>
	エレベーター 設置 反対：19	<ul style="list-style-type: none"> <li>史実に忠実な復元計画案（内部エレベーター未設置）を基本にする必要がある。</li> <li>河村市長のこれまでの説明通りに実現すべきと考えます。</li> <li>日本の木造建築の美しさ、荘厳さ、素晴らしさが体感できる建物に、エレベーターは必要ありません。</li> </ul>
市民説明会・ シンポジウム	エレベーター 設置 賛成：82	<ul style="list-style-type: none"> <li>エレベーター設置は内装面も含め検討していただきたい。</li> <li>外付けのエレベーターを設置すべき。天守閣を多くの人にみてもらいたいのなら、エレベーターは必要。</li> <li>高齢化社会でエレベーターは必須だと思う。</li> </ul>
	エレベーター 設置 反対：70	<ul style="list-style-type: none"> <li>復元というからにはバリアフリーは考えなくてよい。</li> <li>内部にエレベーターは反対。価値を大きく下げてしまう。</li> <li>木造復元しつつ、ハードソフトで皆にやさしい施設として下さい。エレベーター以外にも方法はあるはず。</li> </ul>
老人福祉センター	エレベーター 設置 賛成：122	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、年を取りますと体力が衰える。今まで通りエレベーターを希望する。</li> <li>木造復元には大賛成だが、健康に不安、身体に障害がある人のためにもエレベーターを付けてほしい。</li> <li>史実に忠実な再建も良いかもしれないが、現代に建て替えるなら、誰でも利用できる施設にしてほしい。</li> </ul>
	エレベーター 設置 反対：22	<ul style="list-style-type: none"> <li>城は夢があるのでバリアフリーを重視しすぎない方がよい。</li> <li>バリアフリーのための設備は歴史的価値をないがしろにするため、反対。</li> <li>城は昔のままの城で良い。古いものはいつでも価値がある。</li> </ul>
子ども子育て支援センター	エレベーター 設置 賛成：19	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤ちゃん連れや高齢者は登るのが難しいため、小型でも良いのでエレベーター設置を望む。</li> <li>真実性の高い復元を追及することは悪いことではないが、家族で来城した際にエレベーターがないとなると不便で、「行くのをためらう原因」のひとつになり得ると思う。</li> </ul>
	エレベーター 設置 反対：10	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもがもう少し大きくなったら見に行ける場所というものがあると思う。</li> <li>本来の構造を再現できないようなバリアフリー化であれば、復元の趣旨に合わないと思う。エレベーター案は史実と異なり子どもが誤解すると思う。</li> </ul>

(平成30年4月16日時点))

## 最近行われた他城郭における再建、修理、改修の主な事例

(工事の時系列順)

城郭名	状況
掛川城	<p><b>木造</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成6年に高知城天守などを参考に再建。</li> <li>エレベーター設置の議論はあったが、歴史的建造物の再建を優先し、設置には至らなかった。</li> <li>階段に補助手摺は設置しているが、車いすでの見学はできない。</li> </ul>
大阪城	<p><b>鉄骨鉄筋コンクリート造</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昭和6年の天守閣再建時に内部エレベーター1階～5階（最上階8階）まで設置。ただし、1階までは階段のため、車いすでの見学はできなかった。</li> <li>平成9年の耐震改修工事に合わせて、内部エレベーターを8階まで延長し、外部エレベーターを設置することにより、車いすでも最上階まで見学できるようになった。</li> </ul>
大洲城	<p><b>木造</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成16年に豊富な資料に基づき再建。</li> <li>エレベーター設置の議論はあったが、史実に忠実な復元を優先し、設置には至らなかった。</li> <li>階段に補助手摺は設置しているが、車いすでの見学はできない。</li> </ul>
姫路城	<p><b>木造（国宝）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成21年から平成27年にかけて保存修理が行われた。</li> <li>天守閣内は、エレベーターも無く、手摺があるものの非常に急で狭い階段のため、車いすでの見学はできない。</li> <li>大学主体による、いす担架を用いた重度障害者の登閣支援にかかる実地検証を平成29年度に実施。</li> </ul>
小田原城	<p><b>鉄筋コンクリート造</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昭和35年の天守閣再建時にエレベーターは設置されなかった。</li> <li>平成28年に行われた耐震改修に合わせて、エレベーター設置も検討されたが、外観の阻害や、遺構保護、技術面など様々な問題があることから、設置は見送られた。</li> <li>階段昇降機についても、階段の幅員減少が生じるため見送られた。</li> </ul>
熊本城	<p><b>鉄骨鉄筋コンクリート造</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昭和35年の天守閣再建時にエレベーターは設置されなかった。</li> <li>平成30年3月の熊本城復旧基本計画において、階段での昇降が困難な方を対象としたエレベーター（B1階～1階及び5階～6階は7人乗、1階～5階は9人乗）を最上階まで設置する方針が定められた。</li> </ul>



4人乗（機械室無）エレベータの検討



影響のある主架構

階	梁	柱
四	1	-
三	2	-
二	2	-
一	-	-
地	1	-
計	6	0

梁6本に影響あり  
(うち4本は端部の一部)

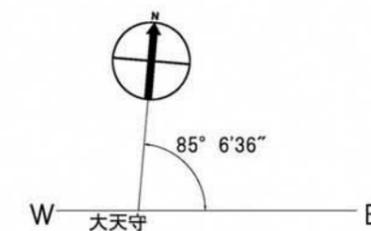
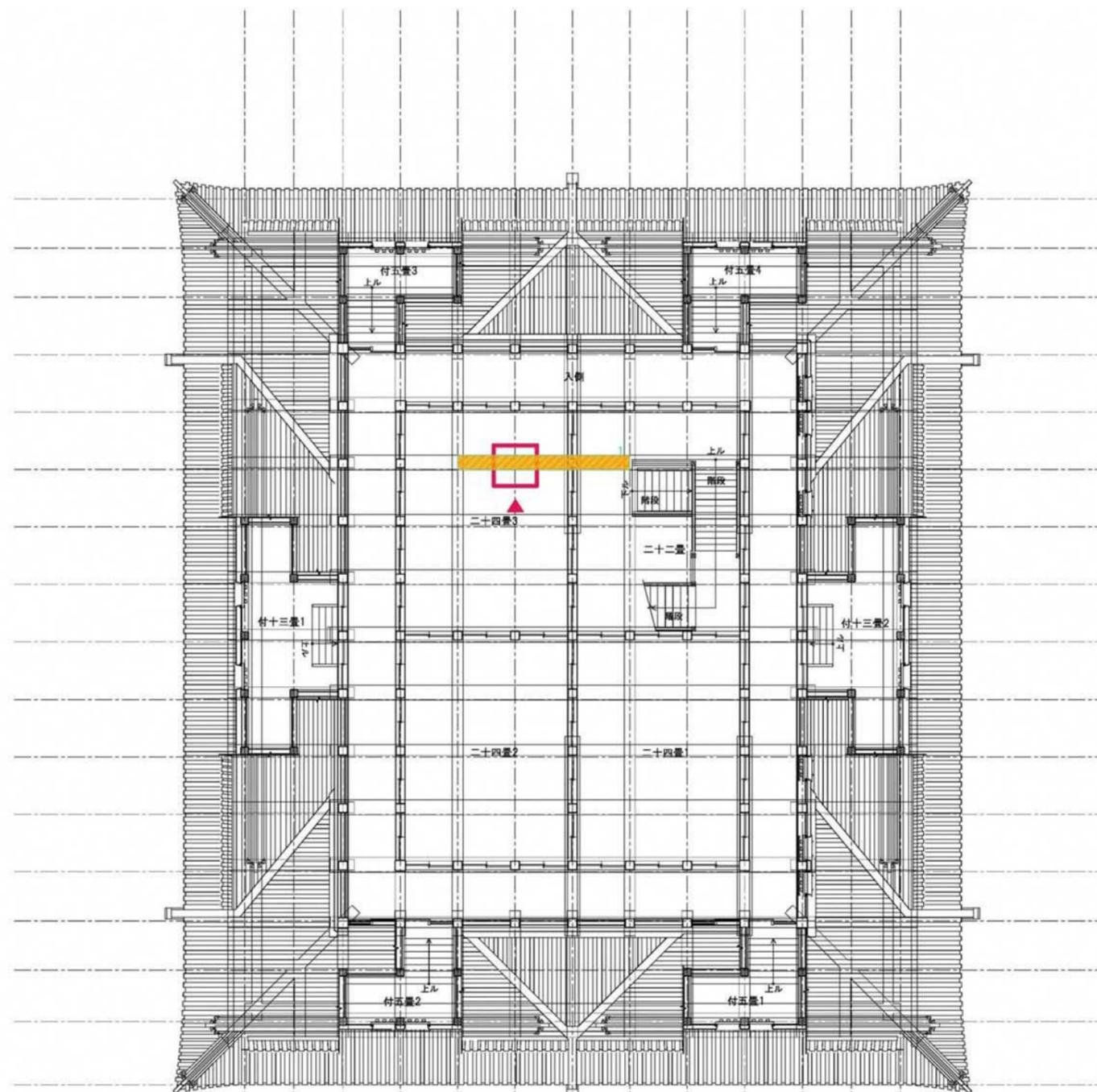
4人乗エレベーターの検討 地階

けまやくおのゐうむらなねつそれたよかわをるぬりちとへほにはろい









- 川十五
- 川十四
- 川十三
- 川十二
- 川十一
- 川十
- 川九
- 川八
- 川七
- 川六
- 川五
- 川四
- 川三
- 川二
- 川一

1,820 1,820 2,124 2,124 2,124 2,124 2,124 2,124 1,820 1,820  
 3,640 4,248 2,124 2,124 2,124 2,124 4,248 3,640  
 16,992  
 けまやくおのあうむらなねつそれたよかわをるぬりちとへほにはろい

4人乗エレベーターの検討 四階

梁1本









